



# 隼人族の森を渡る風

上床 利秋

連載エッセイ 第109回

<https://douzou.jp/>

雲海を観に行く

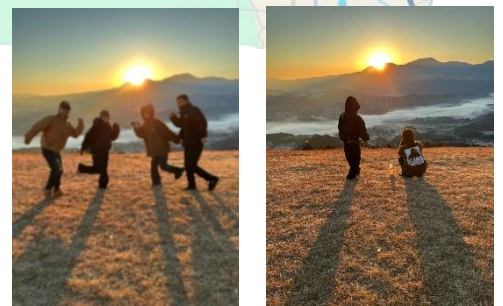


雲海は気温と湿度の条件がうまく重なる条件で発生するのだという。

太陽が昇るにつれて消えていくその雲海を見ようと、知人たちと早朝自宅を車で出発した。人気のある目的地は湧水町のパラグライダー出発地である魚野フライトエリア。

魅力的なのは霧で包まれる吉松の町を見下ろして陽が差していく幻想的な光景だ。平日だったが、この時期は多くの見物客とカメラマンで駐車場が混んでいた。その地で見知らぬ4人の若者たちと仲良くなった。彼らを被写体に朝日を撮影させてもらったが、難しい注文など一切言わなかったのに、その場にあった素敵なポーズをしてくれた。おかげで良い写真ができた。モデルになった若者たちと共に喜んだ。動画撮影に慣れている現代の若者たちはポーズをとり慣れているようだ。

帰り際にそのデータをお互いのスマホで交換してその地を離れた。令和時代の日本文化は確かに進歩している。



2026年1月